

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書
スギ花粉症におけるセルフメディケーションの実態に関する研究

研究分担者 上野 貴雄 金沢大学 助教

研究要旨

スギ花粉症は国民病である。近年、薬局におけるスイッチ OTC 薬も増加し、中等症までの花粉症であれば、適切な OTC 薬を選ぶことで、十分に症状を抑えることが可能であるが、その実態は不明である。花粉症様の鼻炎症状で薬局を訪れ、抗アレルギー薬を購入した人、および花粉症様の鼻炎症状で耳鼻咽喉科を訪れ、抗アレルギー薬の処方を受けた人に対して、WEB アンケートにて実態調査を行っている。

A. 研究目的

これまでセルフメディケーションと医療機関における花粉症治療の効果を比較した研究は少ない。そこで、本研究では薬局にてセルフメディケーションを行った患者さんと、耳鼻咽喉科で治療を行った患者さんに WEB アンケートを実施し、症状の違いや、治療内容、効果、副作用、患者満足度などを比較検討し、セルフメディケーションを含めたよりよい花粉症治療の構築が目的である。

B. 研究方法

花粉症様の鼻炎症状で薬局を訪れ、抗アレルギー薬を購入した人、および花粉症様の鼻炎症状で耳鼻咽喉科を訪れ、抗アレルギー薬の処方を受けた人に対して、WEB アンケートにて調査を行い、この 2 群間における、症状の重症度の違いや、治療内容の違い、治療による症状の変化や満足度の違いを検討する。

（倫理面への配慮）

金沢大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施（2022-267）

C. 研究結果

2024 年 3 月に石川県と富山県の耳鼻咽喉科 73 施設および、薬局 64 施設にて、花粉症様の鼻炎症状にてセルフメディケーションに薬局を訪れた人および、耳鼻咽喉科を受診した方を対象に、アンケートエントリー用紙を配布した。耳鼻咽喉科から 304 件、薬局から 65 件の WEB アンケートへのログインがあり、耳鼻咽喉科 223 件、薬局 50 件の回答を得た。

D. 考察

2 群間での症状の程度や重症度に違いは認めなかった。耳鼻咽喉科群で、症状のつらさの VAS スコアの低下が有意な可能性が考えられたが、症例数が少なくさらなる症例の集積が必要と考えられた

E. 結論

2024 年も同様の研究を実施中であり、症例数を増やして検討する予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
未発表

2. 学会発表
未発表

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他